

シンガポールの中学生、「環境」と「健康」の大切さを学ぶ

6月4日、富山市婦中地区少年少女海外派遣事業で来県したシンガポールの中学生が資料館を訪問しました。鏡森館長の歓迎の挨拶で、約30名の生徒らを出迎えました。引き続き、イタイイタイ病の概要説明を館長が自ら大きな身振りや手振りを交えて、直接英語で行いました。その後は、音声ガイドを使っでの展示見学やガイダンス映像（英語版）で、さらに理解を深めていただきました。語り部講話では、公害病に苦しむ患者や看病の様子などについて、通訳を介して聴いていただきましたが、生徒たちは皆、真剣に聴き入っていました。シンガポールの中学生たちとの相互交流を目的に毎年行われているこの事業では、今回の見学を機に公害を学ぶ施設として、来年度も訪問していただけることになりました。

公害を克服してきた歴史を学び、より多くの国々でも「環境」と「健康」を大切にしたい取り組みが実践されるよう、関係機関とも連携しながら、海外研修生などの誘客にも働きかけていきます。



サービス向上に向けて、「語り部及び解説ボランティア研修会」を開催

一年間の資料館活動を振り返り、「語り部」と「解説ボランティア」の方々を交え、意見交換等を行う研修会を6月20日に開催しました。

まず、萩野病院の青島先生によるイタイイタイ病に関する講演を聴講した後、意見交換を行いました。

語り部さんからは、昨年度、団体利用者の半数以上の方々に聴講いただいた実績もあり、「教訓の継承としての必要性」や「やりがいを感じている」という意見が多く出されました。また、文字や映像では伝わらない「生の声」を、ひとりでも多くの方に聴講いただけるような仕組み作りについても意見交換し、資料館の目玉事業として、語り部制度の充実を図っていきたいと考えています。

また、解説ボランティアさんからは、来館者からの質問への回答に苦慮された事例が挙げられ、今後は、質問への回答内容などをボランティア全員が共有できる体制を構築することで、意思統一を図ることといたします。

この意見交換会は毎年開催し、資料館の運営改善・来館者へのサービス向上に役立てていきます。

